



秋の全国交通安全運動・9月21日～30日

子供とお年寄りを 事故から守ろう

交通事故による死者数は、昨年、六年ぶりに九千人を超えましたが、今年に入っても、依然として増加の傾向にあります。今年一月から六月までの交通事故死者数は全国で四千四百九十九人と、昨年に比べ二百四十五人(五・九%)の増加となっています。

死亡事故の内容を見ると、相変わらず子供とお年寄りが多く、とりわけお年寄りの犠牲者が目立ちます。

クルマ社会の中で弱い立場にあるお年寄りや、交通事故の巻き添えにするのは悲しいことです。

今年も「秋の全国交通安全運動」(九月二十一日～三十日)が行われますが、「子供とお年寄りを交通事故から守ろう」が、重点テーマの一つとなっています。

そこで、今回はとりわけ犠牲者の多いお年寄りの事故防止に焦点を合わせ、交通の面から見たお年寄りの心理と行動特性について考えてみました。

お年寄りの心理を知る——交通事故を防ぐ第一歩として、お年寄り特有の心理と行動特性について見てみましょう。

ドライバーの方へ

お年寄りの心理や特性を知ろう

心理 その1

変化する交通状況に対応できないケースが目立つ

お年寄りは、交通ルールをはじめとする「交通環境」の変化についていけないことがあります。

また、お年寄りの頭の中は、昔の記憶が大半を占め、交通量の多くなった現在の状況を実感としてつかみにくい心理状態にあります。

心理 その2

体や運動機能の衰えにもかかわらず、いつまでも若い気持ちでいることが多い

流れを無視してゆうゆうと歩いて渡るお年寄り、近づいてくるクルマをよけようとしているのに、体はなかなか動かない——ドライバーの皆さん、お年寄り特有の心理や行動特性を理解しお年寄りを交通事故から守りましょう。

「交通安全は家庭から……」が基本

最近の交通事故状況をみてみると、「交通安全は家庭から」という基本の見直しが必要です。

秋の交通安全運動に当たり次の四点を考えてみてください。

●子どもや老人は「事故に遭いやすい者」であることを再確認してください。子どもにも自転車を買わせ、そのまま放任し、夫婦共稼ぎをしている間に、子どもが死亡した例があります。

子どもや老人は適正な交通上の判断ができないため、飛び出しなど——周囲の交通状況に反した行動をします。今一度、子どもや老人の特性を考えて……

●老人は被害者になる率よりも加害者や自損事故で死傷する率が高くなっています。

これは老人の免許人口の増加も一因ですが、「一時停止をしない。ヘルメットをかぶらない。飲酒運転や風雨の中でバイクに乗る」など安全意識の低さがみられます。六十五歳以上のドライバーの多くは、視力聴力、反応動作、高血圧、心臓病などにより安全運転不適症候群(?)

●家族ぐるみで飲酒運転を容認している例が多い——酒を飲んだ父親の車に家族三人が乗って事故を起こしたり、夫がたびたび飲酒運転をして帰宅するのにお年寄りが注意しなかったためとうとう事故を起こして死亡した例があります。最後に泣くのは残された家族である——ことを考えてください。

●高校生や未成年者に分不相応な大型バイクを買わせたり、



巻警察署 稲垣交通課長

老人に対する交通安全教育を……

以前、交通安全協会和納支部の運転者講習会で『交通安全映画』が上映されました。内容は主に自転車事故——特に曲り角や交差点など事故が起きやすい場所での事故を詳細に伝えていました。そのなかで老人による事故の指摘がされていました。

今年に入ってから、交通事故で死亡した人の半数が老人です。この老人の事故の多くは自転車やバイクの運転によって起きており、今後も増加の傾向にあるといわれています。一人ひとりが注意して悲惨な交通事故を起こさないよう、また遭わないよう努力してほしいと思います。

また、交通指導車で巡回指導する毎に、いろいろな交通状況を目にします——朝、出勤時のスピードの出し過ぎ、追越禁止区間での追越しなど目にあります。またストップランプがつかない、夜間の片目ライトの車など整備不良車両も重大事故の一因です。十分注意してほしいものです。

先日はこんなことがありました——巻町赤館地内の信号機のある交差点で、赤信号にもかかわらず自転車で乗った老人が左折しました。幸い対向車がなかったので無事通過しましたが「一瞬ひやっと、しました。その人は腰の曲った人で、前方はほとんど見えない(見ない)姿勢で運転していました。これは老人のもつ特性の一つだと思いますが、万が一のことを考えると、今でもひや汗がでています。

それではなぜ、老人はこのような行動をするのでしょうか——その原因の一つに老人に対する交通安全教育の啓もうが系統だてて行われていないことが挙げられます。今後は最もよい方法で老人一人ひとりに徹底した交通安全教育を行ってきたいと考えています。ご協力ください。

村交通指導員・県老人交通安全推進員 竹内一雄さん

心理 その3

ときに、身勝手と思えるような行動をとることがある



年をとると、当然、体力をはじめ運動機能や感覚機能が低下します。

しかし、本人はまだまだ若いつもりでいるため、この「意識と現実」のギャップが事故を招きやすくしています。

例えば信号の変わりめで横断を始めた時、近道をして横断してはいけないところを渡ったりしてしまふようなことです。

交通量の多い道路をクルマの

いるお年寄りでも、身勝手とは思えない行動をとることがあります。

流れを無視してゆうゆうと歩いて渡るお年寄り、近づいてくるクルマをよけようとしているのに、体はなかなか動かない——ドライバーの皆さん、お年寄り特有の心理や行動特性を理解しお年寄りを交通事故から守りましょう。